

第3回相模原市行財政構造改革本部会議 会議録

日時 令和元年12月26日(木)午後4時55分～

会場 第1特別会議室

出席者 市長、下仲副市長、隠田副市長、森副市長、教育長、総務局長、企画財政局長、企画財政局理事、危機管理局长、市民局長、健康福祉局長、こども・若者未来局長、環境経済局長、都市建設局長、緑区長、中央区長、南区長、議会局長、教育局長、消防局長

開会のあいさつ

1 行財政構造改革プラン策定に当たっての検討イメージについて

- 事務局より、議題について「資料」及び「別紙1」～「別紙4」に基づき説明。

<主な質疑等>

資料に記載された各項目について、今後具体的な見直し効果額等を示していくとしているが、こうした検討に入る前に、本市のあるべき姿について議論すべきと考える。

税源涵養の視点も踏まえたまちづくりの在り方など、政策的な議論についても行う必要があると考える。

事業等の見直しにより、全体として事業費を削減していくことは理解するが、単に「痛み」を伴う改革だけではなく、行政サービスの拡充に繋がるものについても示していくことが必要なのではないか。

別紙1の「2 特定財源の積極的な確保」の項目に、「特定財源のある事業を優先的に実施します」とあるが、具体的にどのようなケースが想定されるのか。

優先度が同程度の事業が複数あった場合、制度上、特定財源の措置のあるものがより優先されることになると考えている。

国の補助金等の有無を基準に、事業の優先度に差をつけることには疑問がある。市の政策判断として、実施すべき事業であるかどうかを決めるべきではないか。

特定財源の有無も、事業実施に当たっての重要な判断基準となる。

民間活力の導入等により市の財政負担が生じない見込みであっても、事業実施の判断に当たっては、事業手法や事業効果などを中長期的な視点で十分に検証した上で行うべきと考える。

事業実施時における特定財源の有無だけでなく、将来の税源涵養に資する事業であるのかといった点についても考慮することが重要ではないか。

税源涵養の観点は非常に重要であると考えている。

2 その他

特になし

以上